

令和8年度 第1回福祉センター運営委員会会議録（要旨）

1. 日 時 令和8年6月30日（火） 午後4時00分～午後5時20分
2. 場 所 やまなみ荘
3. 出席者 委 員：平田勝章、市川壽明、山本吉人、島幸恵、藤原久紀、腰原隆
村 長：藤澤泰彦
副村長：牛越宏通
事務局：所長 坂爪浩之、副所長 甲本太郎、支配人 小坂部元

4. 協議事項

（1）令和7年度の運営状況について

※事業実施状況、決算状況、利用者数等について資料により説明

問：月別事業実施状況は毎回同様の内容が報告されているため、既に説明済みの内容は省略し
新たな取組や変更点を中心に説明した方が分かりやすいのではないかと。

答：今後は、説明内容や資料構成を工夫し、重複を減らしながら分かりやすい報告となるよう
検討します。

問：令和8年度予算では一般会計からの繰入金で1,000万円を下回る見込みとなっているが、
その積算根拠は何か。また、収入を約10%増加させる見込みとしているが、その具体的な根
拠や営業努力について伺いたい。

答：令和7年度は改修工事による休館があったため、休館前までの実績や令和6年度の実績を
参考に予算編成し、各部門で前年実績に約10%を上乗せした収入を見込み繰入金を算出して
います。

営業努力については、村内へのポスティング、新聞広告、SNSによる情報発信の強化を
進めています。また、スポーツ合宿やダンス合宿の誘致にも取り組み、今年度は8件の合宿
利用を確保しています。引き続き関係団体との連携や送迎サービスなど、やまなみ荘の強み
を生かした営業活動を継続していきます。

問：村内・村外利用者の割合は把握しているか。

答：食堂利用者は概ね村内6割、村外4割程度と認識しています。宴会利用は村内利用がやや
多いものの、概ね半数程度が村外利用となっています。送迎サービスは周辺施設には少ない
ため、やまなみ荘の大きな強みでありますので、今後も積極的にPRしていきたいです。

問：フェアや企画について、目標や成果が分かるような指標を示した方がよいのでは。また、成功した企画や改善が必要な企画を分析できる資料があると分かりやすい。

答：人気のある企画と利用が伸びない企画がありますが、食材は通常営業でも使用しているため、フェア単独で成果を数値化することは難しいところです。今後は企画内容やPR方法なども含め、改善を検討していきます。

問：改修工事による休館の影響で年間実績が減少しているが、休館前（4月～12月）の実績を見ると前年を上回る部門も多いため、年間実績だけでは職員の努力が伝わりにくいので、休館前までの実績なども併せて示した方がよい。

答：前回の運営委員会で休館前までの実績を報告しています。今回は年間決算として最終結果を掲載しましたが、今後は休館の影響が分かるような補足資料や説明方法を工夫します。

問：毎回同じような資料ではなく、今年度の実績や月別の推移、目標達成状況が分かる資料を追加して欲しい。また、4月・5月以降の収支や利用状況も分かる資料があるとよい。

答：令和8年度の収支状況については、この後の令和8年度状況で説明する予定です。今後は月別実績や目標との比較など、より分かりやすい資料作りについて検討していきます。

（2）令和8年度の運営について

※令和8年度の運営（事業内容、事業計画、5月末までの会計収支状況等）について資料により説明

問：チップボイラーやLED照明などの設備更新は、当初見込んでいた省エネ・経費削減効果が得られているのか。

答：チップボイラー導入により、燃料費は当初見込みどおり約200万円の削減効果が見込まれており、概ね想定どおりの成果が表れています。LED照明などの設備更新についても、省エネルギー効果が確認されています。

問：駄菓子など新たな商品の導入は効果があったのか。

答：駄菓子など遊び心のある商品が来館者の目を引き、売店への立ち寄りや他商品の購入にもつながるなど波及効果が見られます。

問：宿泊券などのふるさと納税返礼品の取扱いが計画からなくなっている理由は何か。また、使用料改定の記載が削除された理由は何か。

答：使用料改定は令和7年度に実施済みのため、今年度計画から削除しました。宿泊券については配送方法の変更により発送できない状況となっており、現在配送事業者と調整を進めているところで、配送方法が確立できしだい返礼品として再開したいと思います。

問：リニューアル後に人件費が増加している要因は何か。

答：リニューアル直後は来館者対応のため人員を増やしたことが主な要因で、給与改定による影響も人件費増加の一因となっています。

問：道の駅との広域連携事業にやまなみ荘も参加しているのか。

答：現在は農産物の連携からスタートしている段階であり、今後は料理への地域食材活用などやまなみ荘との連携拡大を目指していきます。

問：利益率は改善傾向にあるが、今後さらに向上する見込みはあるか。

答：当初予算は目標値であり、利用者数は変動要因が大きく、支出を抑えながら収入増加を図り、年間では約110%程度の向上を目標としているところです。運営委員の皆様からも利用者の落ち込む時期等の利用者増に向けての提案をお願いします。

問：運営改善の検討を行うためには、月別実績や利用状況など実態が分かる資料を充実させてほしい。

答：今後は利用状況や月別推移など、実態が分かりやすい資料作りを検討していきます。また委員の皆様からは改善策や新たな企画について積極的に意見をお願いします。

問：結婚記念日や誕生日など記念日利用を対象としたプランを企画してはどうか。また、松本地域など企業向けの暑気払い・宿泊宴会プランの営業を強化してはどうか。

答：利用が落ち込む時期の集客策については、委員の皆様からの提案も参考にしながら検討を進めていきたいと思います。記念日プランや企業向け宿泊宴会プランなど、新たな商品づくり・営業活動に取り組んでいきます。

問：他地域との交流事業やホテル祭りなど村のイベントと連携し、宿泊や宴会利用につなげてはどうか。

答：実際に交流事業をきっかけに宿泊やイベント参加につながった事例もあり、交流人口の拡大につながる取り組みとして有効であるので、今後も村のイベントや地域資源と連携し、やまなみ荘の利用促進につなげていきたいと思います。

(3) その他

※管理会計の視点から粗利率改善の取組みと部門別の収入分析と改善方向について説明

- ・売り上げの向上（来客数増加、客単価向上）
- ・原価の削減（仕入構造の見直し、メニュー設計の最適化）
- ・ロス削減（廃棄ロス、仕込み量、食材の共通活用）
- ・オペレーション改善（売れ筋、死に筋の把握と見直し）
- ・商品開発（利益率の高い商品、付加価値商品の開発）

問：川魚の唐揚げや餃子など、お土産・テイクアウト商品の充実を図ることで、宴会利用後の購買促進につながるのではないかと。また、女性グループや宴会利用者向けに持ち帰り商品やテイクアウトの工夫をさらに広げるべきではないかと。

答：女性団体向けのテイクアウト注文などは既に一部実施しているが、今後さらに拡充していきたいと思います。

問：ソフトクリームや地域食材（そば・ごま・ぶどう等）を活用した新商品の開発も検討できないかと。また、そばの端材などを活用した新たな商品化（ロス削減）も可能ではないかと。

答：道の駅ですが、ソフトクリームなど新商品の導入は検討しており、来年度以降の実施も視野に入れいるところです。そばの端材などについては、廃棄せず活用する方法を含めて検討していきたいと思います。

問：日帰り入浴定期券について、購入方法や制度が分かりにくいとの声があるため、周知すべきではないかと。

答：現在、更新時期に合わせてポップ作成や声掛けを実施しています。1回当たりの利用単価などを示しながら、利用促進を図っているところです。また、制度については、より柔軟で分かりやすい仕組みも含めて今後検討していきます。